

平成25年度第2回由布市子ども・子育て会議会議録

1 開催日時

平成26年3月20日木曜日 午後2時から午後4時40分

2 開催場所

由布市役所 庄内庁舎健康センター2階 健康増進室

3 出席者

- (1) 委員 15名 (5名欠席)
- (2) 事務局 3名

4 議事等

- 1. ニーズ調査状況説明について
- 2. 地域における子育て支援について
- 3. 子ども・子育て支援制度の取り組みについて
- 4. 計画の基本理念と基本目標について

5 議事等(要旨)

午後2時、定刻になり開会

- (1) ニーズ調査状況説明について

…… 事務局による資料の説明 ……

- (2) 地域における子育て支援について

資料に基づき現状と課題について、事務局より説明し、所属機関での問題点等意見交換を行った。(要旨は、次のとおり)

会 長：各所属機関の各委員さんより意見をいただきたいと思います。

会 長：出生率は、年々減少しており、現在102万人が25年後には60万をきるということで大変危惧される。

大分市保健所では、出産後の健康状態が懸念されることから、産後うつ等については小児科や精神科と早く接する機会を持つような取り組みも行っている。

由布市の子育て支援情報を充実してほしい。

事務局：いろいろな情報をいただくためにニーズ調査票の自由記述欄に由布市の子育てについて記入してもらうようにしている。携帯サイト(H22～)
→ 由布市の携帯サイト(もばゆふ)、ホームページに掲載、各庁舎に意見箱を設置し子育て支援に関する意見をいただけるようにもしている。

委員：要保護児童の代表者会議に出席したが、内容がよくわかるよう見本的なケースを示してほしい。

事務局：今後は、具体的な事例を示しながら進めていきたい。

委員：きめ細やかな支援の提供に時代が変わったなどと思う

。

委員：『困った時には・・・』の情報源がよく分かっていない方が多い。特に転入された方の悩みが多い。

委員：最近のケースとして、母子家庭の母が鬱状態で子育てが困難になり、児童相談所が介入し、児童養護施設山家学園に入所している。2年生で里心が出ている。

委員：公立幼稚園で出来る子育て支援として預かり保育をしているが、支援を要する子どもが増えてきている。入園時には教育委員会と話し合いをしているが、人数的なことも含め、年々難しくなっている。

土曜日の預かり保育も課題である。また、現在4・5歳児の受け入れを行っているが、3歳児の取扱いについては市内の保育園と一緒に考えていかないといけないと思う。

委員：他県より転入してきたが、支援の情報が無かった。サイト等手厚い支援はありがたいと思う。経済的問題を抱える家庭が多く、電気を止められている場合に別の場所で学力向上できる場はないか。

委員：27年度より制度が変わるとの話で、少しずつでも良いので情報がほしい。

委員：4月より5歳児健診が始まり、入学しても授業を受けきらない子どもや多動児等の早期発見ができるようになる。水痘、ワクチンを無料で受けられる。

委員：児童虐待の会議で、“例えば、育児放棄で夜ママがいないと連絡があり、実は、母親はコンビニで買い物をしていた。”等はこの場では話し合っていけないのですね。

事務局：いいえ、要保護児童対策もこの場で話し合うことになる。

委員：児童館への補助金がカットになり、新しい児童館をつくるのがよいのか苦労している。

会長：受け入れる施設もクリアしていかないと悪いが大変。新しい子ども・子育て支援に係る財源は、当初1兆1千億円が7千億円に制約され、手厚い支援が出来なくなるのではないか。財源が児童館運営にも影響有り。

委員：児童養護施設に勤務していたのでよくわかるが、意見箱は庁舎に設置しているとのことであるが、庁舎にいかない方もいるので幼稚園や保育園等に設置したほうが良いのではないか。市報が配布されない方や転入

してきた方への情報が入りにくい。

事務局：ニーズ調査の対象となった子育て世代の外に、高齢者や子育てを卒業した方の意見を聞きたいと思っています。乳児家庭全戸訪問で情報をいれたりしています。市報等以外で周知する良い方法がありましたらお知らせください。

委員：公立幼稚園の在り方や取り組みを考えていかなければならない。土曜日の預かりや年齢的なこと等。

委員：地域の力を地域で生かす教育ネットワークの取り組みとして、25年度では県が校区ネットワーク（家庭教育ネットワーク）として学力向上の必要性から放課後チャレンジ（寺小屋）を各学校で実施。

委員：子育て支援で0歳児の父親対象にベビーマッサージで講座を開催した。市報に載せても情報が伝わっていないのでお知らせの仕方を考えていかないといけないと思う。

会長：今後由布市の子ども達にとってどういう子育てが良いのか考えていく必要がある。保育園として残るのか、認定子ども園として移行するのか考えていき、幼稚園も十分協議していく必要がある。それが市全体の幼児教育に繋がると思う。

副会長：国の指針のみで計画を立てていくのか、それとも由布市独自のものを考えていくのか。

事務局：由布市では年間300人の出生率で少子高齢化が進行しており、各地域の状況を踏まえ少子化対策を考えていく必要がある。また、三つ子の魂百までというように幼児期からの家庭教育支援を含めた取り組みが必要となるので、市独自の考え方を出していきたい。

副会長：マイナスをプラスに変えていけるような計画へ。豊後高田市は保育料が一番安い。

事務局：由布市を含む7市町村で医療費が中学まで無料になっている。保育料についても県内で安く設定している。子育てしやすい環境を整備するため、皆さんにいろいろな提案をいただきたい。

委員：量の見込みで1号～3号までの保育の必要性の認定が行われたら、1号以外は幼稚園にいけないのか。

事務局：基本的には認定されたとおりになりますが、由布市は私立の幼稚園や公立保育園がなく、公立幼稚園と私立保育園の2つだけなので、非常にわかりやすい。保育の必要性の認定については、今後の会議で十分話し合っていきたい。

会長：懸案事項として、市内私立保育園は認定保育園に向けて協議をしているが、公立幼稚園はどのように進むか教育委員会で十分検討してもらい

たい。今後、認定保育園になるのかこのままか情報収集し、方針を示していきたい。また、市立幼稚園は4、5歳児の受け入れ、大分市の私立幼稚園は3歳児から受け入れているところもある。いろいろなケースがあるので、この会議を通しそれぞれ情報発信して、集約していきたい。

(3) 子ども・子育て支援制度の取り組みについて

…… 事務局による資料の説明 ……

(4) 計画の基本理念と基本目標について

子育て支援計画は、法改正が行われても一連の流れの中で一貫性のあるものが必要という認識から、次世代育成支援行動計画の流れを含め事務局による説明を行い、後期行動計画の基本理念と基本目標

・基本理念 「地域で育む由布っ子—育て 元気にいきいきと—」

・基本目標 「安心して子育てできるまち」「元気にいきいき育つまち」

を継承していくということで良いか提案し、次回の会議まで検討していただくこととした。

6 その他

事務局より、次回開催予定（平成26年5月22日木曜日）を示した。その後閉会。

お問い合わせ先

子育て支援課

0977-84-3111（内線301）